

これまでの総合教育会議意見を踏まえた主要な成果

■学校と地域の連携に関する取組

コミュニティスクールの導入・拡大	令和2年度に福原小学校、中学校など5校をモデル校として試行実施。令和4年度時点では、芳野小学校及び中学校、南古谷中学校、福原小学校及び中学校、大東東小学校、川越第一中学校、川越第一小学校、川越小学校、古谷小学校、高階北小学校、寺尾中学校、砂中学校の13校で導入済み。 令和5年度より、市内の全学校へ拡大の予定。
教員OBの活用	令和2年度に退職校長の協力を得て、大東東小学校で放課後子供教室を試行的に開始。令和3年度からは、川越小学校の放課後子供教室においても退職校長の参加協力を得る。 教員OBのさらなる協力を得るため、退職校長会等において、協力の呼び掛けに努めている。
放課後子供教室の導入・拡大	令和2年度に大東東小学校で放課後子供教室を試行開始し、令和4年度当初では川越小学校、芳野小学校、福原小学校を含めた4校で導入済み。 今年度は導入校をさらに3校追加する予定である。

■学校設備に関する取組

情報端末の導入	令和2年度に児童生徒のタブレット端末、各教室への電子黒板について、市内の全小中学校に一斉導入。
老朽化対策	「川越市小中学校施設整備計画」に基づき、小中学校大規模改造工事を計画的に推進するとともに、受変電設備や受水槽設備、エレベーターなどの重要設備を計画的に更新している。なお、トイレ改修はすべての学校で1系統が完了。 緊急を要するものにつきましては、都度、修繕にて対応しておりますが、大規模な修繕が必要な箇所については、別途工事対応を行っている(令和元年度に大東東小、名細小の屋上防水工事、鯨井中、大東中の防球ネット改修工事を実施済み)。
空調設備設置完了に伴う授業日数の確保	令和2年度より、夏休みの前後2日間(計4日間)を授業日数へと振り返ることにより、授業日数を確保している。

■児童生徒に対する郷土学習の取組

社会教育施設の活用	令和3年度に策定された「ふるさと学習グランドデザイン」に基づき、郷土学習のための博物館の活用拡大を図っている。 これまで小学校3年生及び6年生の授業を中心に博物館を活用していたが、現在は、他学年における博物館の活用機会や、博物館職員を学校へ派遣しての出前授業や現地解説の機会を拡大している。
-----------	--

■教職員の負担軽減の取組

在校時間記録システムの導入	勤務時間を客観的に把握し、勤務時間の分析及び課題設定とその解決策の検討のため、平成29年度に在校時間記録システムを導入。
統合型校務支援システムの導入	令和2年度に、児童生徒の出欠管理・成績処理、保健管理とともに、指導要録や学校事務等の機能を統合した校務支援システムを導入。
スクールサポートスタッフの配置	教員が児童生徒と向き合う時間をより確保するため、教員の業務の一部を負担するスクールサポートスタッフについて、令和4年度より7校に配置(大東西小学校、川越小学校、月越小学校、上戸小学校、芳野小学校、武蔵野小学校、広谷小学校)。